

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年 12月 1日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3474100298		
法人名	尾道市		
事業所名	公立みつぎ総合病院グループホーム「かえで」		
所在地	広島県尾道市御調町高尾1348番地6 (電話) 0848-76-2569		
自己評価作成日	令和5年11月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3474100298-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年11月20日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

公立みつぎ総合病院グループホーム「かえで」では、入居者が住み慣れた地域で家庭的な環境のもと生活しています。母体病院や総合施設の他部署と協力して包括的な医療提供体制が出来ています。地域の行事への参加は、新型コロナウイルス感染防止の為再開出来ていませんが、図書館への作品展示や原爆慰霊碑へ千羽鶴献納等、地域と継続した関係性を続けています。敷地内に菜園があり、入居者とスタッフが一緒に野菜作りをしています、収穫した野菜は食卓に上っています。また総合施設や「かえで」での研修を受講し、ケアの質向上のため、職員一人ひとりが自己研鑽に励んでいます。心身機能・生活機能の維持向上を目指し、基本理念に沿ったケアの実践を重視した運営を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

コロナ禍による自粛はあるが、最近の特徴的な取り組みとして「馴染みの人や場との関係継続の支援」がある。即ち事業所は「気軽に訪問できる事業所作り」を重視しており、現在のコロナ禍による面会制限下の中、家族の要望に基づき予約制ながら玄関横の面会スペースで10分程度の面会が可能となっており、殆ど全員の面会が実現している。又、毎月のケアの質向上委員会（医療介護連携会議）への出席を通して事業所の運営情報の発信や市町担当課からの相談等、関係職種と共に地域と双方向の関係構築を図っている。ケアの質向上の基盤であるケア実践力を高めるため総合施設・事業所で年間の研修体系を構築し、経験年数に沿った段階的・階層的なカリキュラムや同じ研修を2か月続けて開催し、職員が参加し易い工夫もしている。

自己評価	外部評価	項目(1棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎日、朝礼にて掲示してある病院の基本理念・「かえで」の理念を唱和し実践できるようにしている。また、年度初めには、理念の中の言葉を一つ選び深く掘り下げユニット単位での目標を立てている、この目標を達成するための個人目標を各ユニットに掲示し毎月評価している。	法人・事業所理念を毎日唱和し、ケア実践上の原点としている。今年度は理念の内、「利用者の心の受容・共感・ゆとりある生活」について各ユニットで年間目標を設定・掲示し、年度末に検証している。併せて各職員も個人目標を策定し個人目標モニタリング票で毎月自己評価をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルス感染防止の為、利用者の地域行事への参加は再開出来ていない。原爆慰霊碑への千羽鶴献納、図書館での作品展示などを通じて地域と継続した関係を築けるようにしている。	現在はコロナ禍による外出自粛中だが、利用者の作る木目込みを図書館の作品展に出したり、御調支所を通して原爆慰霊碑へ折り鶴献納等、地域交流をしている。面会や地域住民の運営推進会議参加等の相互交流と共に地域中学生の職場体験や県立大学の実習生受け入れ等、世代間交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	新型コロナウイルス感染防止の為、実施する機会がなかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	資料配布で行っていたが、会議の開催を再開し、「かえで」の運営状況や行事等の報告をしている。現在は新型コロナウイルス感染防止の為難しいが、今後可能になったら、音楽サークルなどのボランティアを受け入れてほしいとの意見をいただいている。	会議は定期的開催し、今年の7月からは対面会議となっている。地区住民・警察署職員・民生委員・地域包括支援センター職員等、多職種が参加している。会議では事業所の活動報告・意見交換を行い、参加者から会議の活性化のため事前に会議テーマを設定してはという提案があった。	コロナ禍のため最近では書面会議となっていた。その緩和に伴い会議の再編を進めているが、コロナ禍であり家族の参加はない。不参加家族との事業所運営に関する情報共有が不十分である。今後は不参加家族との情報共有・交換の仕組み作りを通して更なる会議の活性化を期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議や他の会議で「かえで」の運営や取組みを伝えている。	事業所自体が公立病院に属しており、その運営推進会議に地域包括支援センター職員も参加して情報共有を図っている。又、毎月のケアの質向上委員会（医療介護連携会議）への出席を通して事業所の運営情報の発信や市町担当課からの相談等、関係職種と共に協力関係の構築を図っている。	

自己評価	外部評価	項目(1棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての研修を実施し知識の向上に努めている。また、ケアの質向上委員会にて身体拘束について話し合っている。 認知症高齢者の行動を見守りながら寄り添う支援を実践している。	法人内の「ケアの質向上委員会」で毎月行う事例検証や研修会を通して職員は「拘束をしない」必要性を認識し、具体的なケアの中で実践を重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	虐待の防止についての研修を実施し知識の向上に努めている。また、認知症の研修会に参加する事で正しい認知症ケアを実践できるようにし、職員間で声をかけあっている。	/	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在制度を使っている人は居ないが、制度や権利擁護についても、総合施設全体での研修を実施している。	/	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に説明を行い理解を得て契約を行っている。	/	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時に苦情に関する施設相談窓口や外部機関への相談等の説明を行っている。また満足度調査を実施し、職員間で改善するための検討を行い、その結果を家族に配布している。常日頃より家族と電話連絡をとり本人の状態や要望を確認している。	家族とは面会・電話連絡等で意見を把握し、管理者のもとで集約して情報共有をしている。又、毎年家族アンケートを実施し家族に結果報告をしている。コロナ禍で利用者との面会制限はあったが、家族の要望により事業所での窓越し面会から玄関横の面会スペースで予約制の面会を実現している。	

自己評価	外部評価	項目(1棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	事前に職員から意見を聞き毎月開催しているミーティングで話し合っている。また、総合施設内の経営・業務改善会議に参加しスタッフ間で情報共有している。	毎月の職員会議・委員会、毎日の申し送りや管理者と年2回又は随時の個別面談等で意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案や職場での悩み等に対する支援体制を採っている。職員意見で食材の野菜が今の冷蔵庫に入りきらなくなったので他部署からの冷蔵庫3台導入した経緯がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人目標の評価を毎月してもらっている。年に2回管理者と個別に面談をおこない意見交換の機会を設け、努力・実績などを評価している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	段階別研修（新人研修・中堅研修）、病院の全体研修、総合施設全体研修、「かえで」研修など、毎月の研修計画を立て参加している。認知症介護実践者研修・リーダー研修への参加も支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	認知症対応型サービス事業開設者研修を受け入れていたが現在コロナウイルス感染防止のため受け入れていない。施設外の研修に参加した際や他施設への面談を利用して他施設スタッフとの情報交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前より情報収集と事前面談を行い、本人の困りごとなどを聞いている。環境が変わる事への不安等が軽減するように話を聞き安心できる様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(1棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に家族と面談を行った際に不安な事や要望などを伺っている「かえで」内の見学は希望に応じて行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族の必要としている支援の在り方について多職種で話し合い、他のサービス資源が必要な際には照会を行うなどニーズに合った対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者に寄り添い、喜怒哀楽を分かち合えるように関わっている。生活の中で利用者のできることに目を向け、家事や屋外活動などを一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日常の出来事を家族に伝え、家族からは昔の生活習慣や様子を聞き、お互いに話し合いながら対応を検討している。電話での連絡時には、本人も交えて話すこともある。家族の関わりに感謝し、家族の思いや気づきをケアに活かせるように配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	予約制ではあるが面会を再開している。馴染みの人と電話や手紙でのやり取りを通じて関係が継続できるように支援している。	「訪問しやすい事業所・地域との絆」を重視し、現在は予約制ながら玄関横の面会スペースで10分程度の面会が可能となっており、殆ど全員の面会が実現している。又、電話・手紙のやり取りの他、受診・法事等、馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。	

自己評価	外部評価	項目(1棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係性を把握し、孤立しないよう、活動への参加や日常のくつろげる場所などを配慮している。状況に応じて職員が介入し会話を繋げられるように関わっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	新型コロナウイルス感染防止の為現在は行えていないが、以前は総合施設内の施設に住み替えされた利用者へ面会に行ったりしていた。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成時は必ず本人・家族に意向を尋ねケアプランに反映させている。意向を伝えるににくい利用者に対し日頃から言動の背景にある心理の理解に努めている。利用者一人ひとりの「私の姿シート」を職員全員で記入して、申し送りやミーティングなどで情報を共有している。	利用者の習慣や好み等の基本情報をもとにその方に深く関わる中で「私の姿シート」に全職員が逐次書き込み気付きを共有している。菜園の雑草が気になる利用者には職員と草抜きをしてもらう立案例や活気の低下した方に対し元気な時を知っている家族や職員の情報から本人本位に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に生活歴や昔の暮らし、好みなどの情報を収集しまとめている。入居後も本人や家族から情報の収集を継続している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者の1日の様子を細かく記録し本人の過ごし方を職員間で把握し情報を共有している。気づきがあれば申し送りやミーティングなどを活用し情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(1棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月モニタリングを行い、ケアプラン作成時には、本人・家族の要望を聞き、リハビリスタッフ・歯科衛生士と連携し情報を集めアセスメントを行っている。併せて各ユニットの職員全員で「私の姿勢シート」を記入し、ケアプランに反映させている。	利用者毎の担当職員が収集した情報を計画作成担当者が集約し、時に家族も参加する担当者会議で検討、策定している。毎月のモニタリング、3カ月を基本に計画を見直している。法人のリハビリ職と連携した生活機能向上や表出困難な方にはひも解きシート等も活用した策定に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者の1日の様子を、いつ、どのようにと分かるように細かく記録し、ケアのヒントや気づきなど本人の言葉をそのまま電子カルテに入力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	音楽療法の実施や、歯科医師・歯科衛生士による口腔のチェック、リハビリスタッフと共同し生活機能向上のためのアセスメントを実施、管理栄養士による栄養指導等、課題解決に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	新型コロナウイルス感染防止のため現在は地域に出かけてはいないが、地域の図書館に展示する作品を作ったり、原爆慰霊碑に献納する千羽鶴を折るなどの活動を「かえで」内で行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に当事業所の母体病院をかかりつけ医とする同意を得ている。内科・精神科・歯科・皮膚科の医師による定期的な訪問診察、必要時の通院体制を整えている。受診の経緯や結果を家族に報告している。	今までの主治医の継続も可能だが、全利用者は法人内の内科協力医等から月1回、協力歯科医から月2回の訪問診療を受けている。専門医の受診は職員が同行している。総合施設内の事業所や診療所の看護師による健康管理や非常勤の歯科衛生士の配置もあり、適切な医療を受けられる体制を築いている。	

自己評価	外部評価	項目(1棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	母体病院や総合施設内の看護師と24時間連絡が取れる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体病院のため、入院時には病院職員に対し情報交換や相談が行える体制が整っている。病棟スタッフや病院の相談員・リハビリスタッフと内線で情報共有や相談を行い、退院許可が出ると直ちに受け入れ体制を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	日頃から利用者の状態を家族に伝えており、今後の考えられる状態も説明している。重度化した場合は、職員は医師の指示を受けながら家族の気持ちに寄り添い安心して支援が出来る様に取り組んでいる。	利用開始時「重度化対応・看取りの指針」等を説明し了解を得ている。重度化した際は主治医・家族等で話し合い今後の方針を決め適切な支援を行っている。介護老人福祉施設への住み替え等、総合的・包括的な対応に努めている。昨年コロナ禍で施設入所待機となり、看取りとなった例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時の対応をマニュアル化し、研修を実施している。また、総合施設全体研修で救命処置の研修を毎年行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	総合施設全体での避難訓練、「かえで」研修会を実施し、自然災害に備え、職員が災害時の行動や、備蓄物や避難経路の確認を行っている。	消防署ち会いのもと、総合施設全体で年2回の避難訓練、事業所独自で年1回の机上訓練を実施している。ハザードマップでは非該当地域だが、隣接の介護老人福祉施設・介護老人保健施設は地域の福祉避難所として位置付けられている。備蓄は法人が備蓄倉庫で一括管理をしている。	

自己評価	外部評価	項目(1棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	接遇の研修会を実施し言葉遣いや対応に配慮している。毎月接遇目標をたてモニタリングをしている。申し送りなど声の大きさや場所に配慮している。	研修で職員の幅広い知識の習得と資質向上を図る体制もある。接遇は重要課題として以前から尽力しており、一定水準以上を保てるよう取り組んでいる。職員間で話しやすい雰囲気があり、気づきを伝えている。利用者名が見えないように靴の中や服の裏に書く等、個人情報に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者に寄り添う事で、日常の言動を把握し意思表示や自己決定がしやすいように声かけや選択肢の提示など行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者一人ひとりのペースに合わせ、意向に合わせるように支援している。また、職員の意識づけとして「かえで」理念に沿ったものであるように日頃から声をかけ合っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	今まで使用していた化粧品の使用など、本人の好みや大切にしてきた習慣に応じた身だしなみを支援し、家族とも連絡を取り合い、その人の好みの物を準備してもらうように働きかけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	敷地内の菜園で野菜の手入れを一緒に行い収穫して利用者と職員と一緒に献立を決め準備をしている。季節の料理や誕生日には好きなものを作ってお祝いしている。利用者一人ひとりのできることを支援し、準備から片づけまでを一緒に行っている。	昼夕食の献立は利用者のその日の要望と食材を勘案し、職員と利用者で決めている。菜園野菜を活用したり、おやつで栗羊羹を作ったり、中庭で昼食を摂ることもある。利用者は準備から片づけまで役割に応じた協力を行っている。又、食卓の高さや2種類の椅子等、個別性も考慮している。	

自己評価	外部評価	項目(1棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの食事は把握できており本人の状態に合わせて食べ物や飲み物を提供している。嚥下困難な人にはS Tの評価を基に食形態の変更や増粘剤を使用している。状態によっては個別に好みのものを提供し、体力の維持及び、摂取量の低下を防いでいる。月1回、管理栄養士から助言や指導を受けている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後口腔ケアを実施し、個人の能力に応じ支援している。定期的に歯科医師・歯科衛生士の訪問診療や口腔ケアをおこない、口腔に関する相談がしやすい体制が整っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄の支援が必要な利用者は、サインや間隔を見ながら声をかけている。個々の状況に合わせオムツの種類や使い方を検討し、ご家族とも情報を共有し準備している。</p>	<p>排泄記録表で排泄パターンを把握してトイレ誘導を基本としている。退院時の紙おむつから布パンツへの移行や自力でパット交換できる様個別の収納棚等、その方の状態に合わせた排泄の自立支援を行っている。又、夜間排泄時の転倒防止の為、赤外線離床センサー設置等の環境整備もある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>日常的に水分摂取に努め、食物繊維や乳製品の摂取などの工夫をしている。毎日の体操や施設周囲の散歩を行うなど、運動する機会を設けている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>一人ひとりのタイミングを図りながら入浴できるように支援している。利用者のペースに合わせた時間や介助法で支援している。</p>	<p>週2回以上の午前又は午後浴だが、利用者の体調や入浴習慣に合わせて好みの湯温や時間等、柔軟に対応している。利用者の体の負担を考慮し、シャワー浴や足浴等で対応することもある。半埋め込み式家庭浴槽に入浴台等の設置や入浴を楽しめる様、冬至に柚子湯やBGMで歌を歌うこともある。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人が好まれる場所で休息したり、個人の状態に合わせた休息時間をとれるよう支援している。今までの習慣を継続できるように就寝時間や照明など一人ひとりの時間に合わせた声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者に処方してある薬の記録は一覧できるようにファイリングしている。処方に変更があった時は、心身の状態の観察と記録を行い介護職員、医師、看護師との連携に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	役割ができていない利用者には、継続できるように支援し、意思の表現が困難な利用者には日頃の言動から好きな事に参加出来るように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在、新型コロナウイルス感染防止の為外出の支援は再開出来ていない。気分転換に施設周囲の散歩を行っている。	現在はコロナ禍による外出自粛だが、利用者は事業所周圍の散歩やベンチで休み、鯉の餌やりや畑仕事で植え付けから収穫等を行っている。受診の他、10月末から外出許可となり、法事・自宅・外食・季節の外出行事等、従来通りの外出支援に取り組める状況になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の管理が困難な利用者に対して職員が関わっている。		

自己評価	外部評価	項目(1棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>利用者が家族に電話をしたいとの希望があった時、手紙や贈り物があった際にはお礼の電話を本人からかけられるよう支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>明るすぎず、暗すぎず照明が刺激にならないように配慮している。また、大きな音や光の刺激も極力少なくなるように調整している。季節を感じられるように、花を生けその時期に応じた飾り付けを工夫している。</p>	<p>花壇や華道クラブの花・菜園野菜や季節行事の飾り付け、利用者の壁掛け作品等で季節の移ろいを感じられる様配慮している。和室の掘りごたつ・襖等、懐かしい家具や天窓からの採光や調理の匂い等で居心地の良い生活空間となっている。今回照明をLEDに替え、程良い明るさに調整している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングや廊下など各々が安心して過ごせる様に家具やソファの配置を工夫し、くつろげる場所がある。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居前の面談時に、本人の好みのものや使い慣れたものを持ってきてもらうように説明している。入居時にそれらのものは、家族や本人の手により配置している。</p>	<p>居室は洗面台等が備え付け、ベッドは持ち込みとなっているが、畳の部屋もある。姿見等、使い慣れた物や鉢植え等、好みの物を持ち込み居心地よく過ごせる様にしている。状況によりベッドに替えてマットレスを敷いている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>目当ての場所が分かるように表札を設置している。洗濯の物干し台は利用者に応じた高さのものを利用している。</p>		

V アウトカム項目(1棟) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(2棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎日、朝礼にて掲示してある病院の基本理念・「かえで」の理念を唱和し実践できるようにしている。また、年度初めには、理念の中の言葉を一つ選び深く掘り下げユニット単位での目標を立てている、この目標を達成するための個人目標を各ユニットに掲示し毎月評価している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	新型コロナウイルス感染防止の為、利用者の地域行事への参加は再開出来ていない。原爆慰霊碑への千羽鶴献納、図書館での作品展示などを通じて地域と継続した関係を築けるようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	新型コロナウイルス感染防止の為、実施する機会がなかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	資料配布で行っていたが、会議の開催を再開し、「かえで」の運営状況や行事等の報告をしている。現在は新型コロナウイルス感染防止の為難しいが、今後可能になったら、音楽サークルなどのボランティアを受け入れてほしいとの意見をいただいている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議や他の会議で「かえで」の運営や取組みを伝えている。		

自己評価	外部評価	項目(2棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての研修を実施し知識の向上に努めている。また、ケアの質向上委員会にて身体拘束について話し合っている。 認知症高齢者の行動を見守りながら寄り添う支援を実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	虐待の防止についての研修を実施し知識の向上に努めている。また、認知症の研修会に参加する事で正しい認知症ケアを実践できるようにし、職員間で声をかけあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在制度を使っている人は居ないが、制度や権利擁護についても、総合施設全体での研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に説明を行い理解を得て契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時に苦情に関する施設相談窓口や外部機関への相談等の説明を行っている。また満足度調査を実施し、職員間で改善するための検討を行い、その結果を家族に配布している。常日頃より家族と電話連絡をとり本人の状態や要望を確認している。		

自己評価	外部評価	項目(2棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	事前に職員から意見を聞き毎月開催しているミーティングで話し合っている。また、総合施設内の経営・業務改善会議に参加しスタッフ間で情報共有している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人目標の評価を毎月してもらっている。年に2回管理者と個別に面談をおこない意見交換の機会を設け、努力・実績などを評価している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	段階別研修（新人研修・中堅研修）、病院の全体研修、総合施設全体研修、「かえで」研修など、毎月の研修計画を立て参加している。認知症介護実践者研修・リーダー研修への参加も支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	認知症対応型サービス事業開設者研修を受け入れていたが現在コロナウイルス感染防止のため受け入れていない。施設外の研修に参加した際や他施設への面談を利用して他施設スタッフとの情報交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前より情報収集と事前面談を行い、本人の困りごとなどを聞いている。環境が変わる事への不安等が軽減するように話を聞き安心できる様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に家族と面談を行った際に不安な事や要望などを伺っている「かえで」内の見学は希望に応じて行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族の必要としている支援の在り方について多職種で話し合い、他のサービス資源が必要な際には照会を行うなどニーズに合った対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者に寄り添い、喜怒哀楽を分かち合えるように関わっている。生活の中で利用者のできることに目を向け、家事や屋外活動などを一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日常の出来事を家族に伝え、家族からは昔の生活習慣や様子を聞き、お互いに話し合いながら対応を検討している。電話での連絡時には、本人も交えて話すこともある。家族の関わりに感謝し、家族の思いや気づきをケアに活かせるように配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	予約制ではあるが面会を再開している。馴染みの人と電話や手紙でのやり取りを通じて関係が継続できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目(2棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係性を把握し、孤立しないよう、活動への参加や日常のくつろげる場所などを配慮している。状況に応じて職員が介入し会話を繋げられるように関わっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	新型コロナ感染防止の為現在は行えていないが、以前は総合施設内の施設に住み替えされた利用者へ面会に行ったりしていた。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成時には必ず本人・家族に意向を尋ねケアプランに反映させている。意向を伝えるに難しい利用者に対し日頃から言動の背景にある心理の理解に努めている。利用者一人ひとりの「私の姿シート」を職員全員で記入して、申し送りやミーティングなどで情報を共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に生活歴や昔の暮らし、好みなどの情報を収集しまとめている。入居後も本人や家族から情報の収集を継続している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者の1日の様子を細かく記録し本人の過ごし方を職員間で把握し情報を共有している。気づきがあれば申し送りやミーティングなどを活用し情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(2棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月モニタリングを行い、ケアプラン作成時には、本人・家族の要望を聞き、リハビリスタッフ・歯科衛生士と連携し情報を集めアセスメントを行っている。併せて各ユニットの職員全員で「私の姿勢シート」を記入し、ケアプランに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者の1日の様子を、いつ、どのように分かるように細かく記録し、ケアのヒントや気づきなど本人の言葉をそのまま電子カルテに入力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	音楽療法の実施や、歯科医師・歯科衛生士による口腔のチェック、リハビリスタッフと共同し生活機能向上のためのアセスメントを実施、管理栄養士による栄養指導等、課題解決に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	新型コロナウイルス感染防止のため現在は地域に出かけてはいないが、地域の図書館に展示する作品を作ったり、原爆慰霊碑に献納する千羽鶴を折るなどの活動を「かえで」内で行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に当事業所の母体病院をかかりつけ医とする同意を得ている。内科・精神科・歯科・皮膚科の医師による定期的な訪問診察、必要時の通院体制を整えている。受診の経緯や結果を家族に報告している。		

自己評価	外部評価	項目(2棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	母体病院や総合施設内の看護師と24時間連絡が取れる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体病院のため、入院時には病院職員に対し情報交換や相談が行える体制が整っている。病棟スタッフや病院の相談員・リハビリスタッフと内線で情報共有や相談を行い、退院許可が出ると直ちに受け入れ体制を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	日頃から利用者の状態を家族に伝えており、今後の考えられる状態も説明している。重度化した場合は、職員は医師の指示を受けながら家族の気持ちに寄り添い安心した支援が出来る様に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時の対応をマニュアル化し、研修を実施している。また、総合施設全体研修で救命処置の研修を毎年行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	総合施設全体での避難訓練、「かえで」研修会を実施し、自然災害に備え、職員が災害時の行動や、備蓄物や避難経路の確認を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(2棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	接遇の研修会を実施し言葉遣いや対応に配慮している。毎月接遇目標をたてモニタリングをしている。申し送りなど声の大きさや場所に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者に寄り添う事で、日常の言動を把握し意思表示や自己決定がしやすいように声かけや選択肢の提示など行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者一人ひとりのペースに合わせ、意向に合わせるように支援している。また、職員の意識づけとして「かえで」理念に沿ったものであるように日頃から声をかけ合っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	今まで使用していた化粧品の使用など、本人の好みや大切にしてきた習慣に応じた身だしなみを支援し、家族とも連絡を取り合い、その人の好みの物を準備してもらうように働きかけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	敷地内の菜園で野菜の手入れを一緒に行い収穫して利用者と職員と一緒に献立を決め準備をしている。季節の料理や誕生日には好きなものを作ってお祝いしている。利用者一人ひとりのできることを支援し、準備から片づけまでを一緒に行っている。		

自己評価	外部評価	項目(2棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの食事は把握できており本人の状態に合わせて食べ物や飲み物を提供している。嚥下困難な人にはS Tの評価を基に食形態の変更や増粘剤を使用している。状態によっては個別に好みのもので提供し、体力の維持及び、摂取量の低下を防いでいる。月1回、管理栄養士から助言や指導を受けている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後口腔ケアを実施し、個人の能力に応じ支援している。定期的に歯科医師・歯科衛生士の訪問診療や口腔ケアをおこない、口腔に関する相談がしやすい体制が整っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄の支援が必要な利用者は、サインや間隔を見ながら声をかけている。個々の状況に合わせてオムツの種類や使い方を検討し、自分でパット交換ができる利用者には、手に取りやすい場所にパットとゴミ箱を準備し自立を促している。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>日常的に水分摂取に努め、食物繊維や乳製品の摂取などの工夫をしている。毎日の体操や施設周囲の散歩を行うなど、運動する機会を設けている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>一人ひとりのタイミングを図りながら入浴できるように支援している。利用者のペースに合わせた時間や介助法で支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人が好まれる場所で休息したり、個人の状態に合わせた休息時間をとれるよう支援している。今までの習慣を継続できるよう就寝時間や照明など一人ひとりの時間に合わせた声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者に処方してある薬の記録は一覧できるようにファイリングしている。処方に変更があった時は、心身の状態の観察と記録を行い介護職員、医師、看護師との連携に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	役割ができている利用者には、継続できるように支援し、意思の表現が困難な利用者には日頃の言動から好きな事に参加出来るように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在、新型コロナウイルス感染防止の為外出の支援は再開出来ていない。気分転換に施設周囲の散歩を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の管理が困難な利用者に対して職員が関わっている。		

自己評価	外部評価	項目(2棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>利用者が家族に電話をしたいとの希望があった時、手紙や贈り物があった際にはお礼の電話を本人からかけられるよう支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>明るすぎず、暗すぎず照明が刺激にならないように配慮している。また、大きな音や光の刺激も極力少なくなるように調整している。季節を感じられるように、花を生けその時期に応じた飾り付けを工夫している。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングや廊下など各々が安心して過ごせる様に家具やソファの配置を工夫し、くつろげる場所がある。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居前の面談時に、本人の好みのものや使い慣れたものを持ってきてもらうように説明している。入居時にそれらのものは、家族や本人の手により配置している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>目当ての場所が分かるように表札を設置している。洗濯の物干し台は利用者に応じた高さのものを利用している。</p>		

V アウトカム項目(2棟) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 公立みつぎ総合病院グループホーム「かえで」

作成日 令和5年12月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営に関する情報を家族と共有できていない。	運営に関する情報を家族と共有できる。	家族宛ての広報誌に運営に関する情報を記載する。	1年間
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。